

経営部門

青森県上北郡七戸町
有限会社金子ファーム
 (代表取締役 金子 春雄)

地域と共存した 資源循環型大規模畜産への挑戦

～『三方良し』(消費者・生産者・地域社会)の
 商人道精神に根ざして～



金子ファームの皆さん

有限会社金子ファーム(代表取締役 金子春雄さん)は、青森県の畜産地帯である上北郡七戸町で約130haの広大な用地を有し、肉用牛(ホルタイン種、交雑種、日本短角種)を約8,410頭飼養する、年間売上高約24億円の県下一の大規模肥育農場である。

代表取締役の金子春雄さんの持ち前の優れた経営感覚と努力で幾多の困難を乗り越え、現在までに成長するに至った同社であるが、ただ利益を追求することだけが目的ではなく、その経営の根底に流れる理念は、創業以来一貫して「安全・安心にこだわった消費者から信頼される畜産物の提供」にある。

また、近隣の六ヶ所村出身の金子さんは、地域社会に密着した経営の実践として「環境保全への配慮」、「資源循環型畜産への挑戦」、そして「地域社会との協調・融和」への取り組みに尽力している。

有限会社金子ファームの経営の特徴は以下の通り。

第1に、家族労働力4人と常雇20人、自場のほか預託農場7戸で、肥育牛8,410頭(乳用種主体)の大規模肥育経営で、平成20年度の売上高は24億円、経常所得1億2,800万円と高収益を実現している。

第2に、経験のない管理者でも可能なようにマニュアル化された飼養管理方法を採用し、そ

れが高い収益性の基礎になっている。また、財務状況も健全であり、大規模経営にありがちな負債問題も抱えていない。

第3に、自給飼料生産76ha(トウモロコシ26ha、オーチャード50ha)を積極的に行い、県内産稲わらとモネンシンフリーの指定配合飼料を給与して、安全性の確保に務めている。

第4に、最新のふん尿処理施設(縦型オーガ方式、縦型密閉コンポ)を導入して、環境保全およびたい肥の自給飼料・菜種生産利用で資源循環型畜産を展開している。

第5に、営農大学校の学生を研修および社員として受け入れ、南部曲家育成厩舎や馬頭観音堂など文化財の保全、小中学生の総合学習、フェスティバルなどのほか、ジャージー種3頭を飼養してのジェラート販売とその売店を利用した地元画家や写真家のギャラリー設置など消費者交流、地域社会との調和に力を注いでいる。

金子さんは農業者ではあるものの、「消費者、生産者である法人、そして社会貢献」に意を用いた『三方良し』の商人道の精神を忘れずに、信頼関係の構築を何より大事とした畜産経営を行いたいとしているが、この金子さんの経営哲学は、次の時代を見つめる後継者に確実に引き継がれようとしており、今後とも同社の持続的発展が大いに期待される。

活動のようす



▲健康な牛づくり
オリジナルブランド「健・育・牛」を確立



▲たい肥生産
良質たい肥を県内の耕種農家へ供給



▲自給飼料生産
自農場のたい肥を使った飼料生産



▲なたねの栽培
たい肥を活用したなたね栽培。搾油やハチミツを商品化



▲地域との調和
動物とのふれあい体験や研修生の受入れ



▲手作りジェラートショップ
自農場の素材を使ったジェラートづくり